

田園環境都市ビジョン 基礎資料 | 小山地区

図版集

II 踏査および文献調査による報告

2023年1月

小山市

有限責任事業組合 風景社

本調査における風土の定義

風土とは、地域の自然に人間が暮らしと生業を通して働きかけることでかたちづくられる、人々が生きる環境のことをいいます*。

* 藺田稔編『神道』弘文堂、1988年、総372頁

それは、いってみれば人々が生きる身近な世界、生活世界でもあります**。

** アルフレッド・シュッツ、トーマス・ルックマン『生活世界の構造』那須壽監訳、筑摩書房、2015年、総634頁

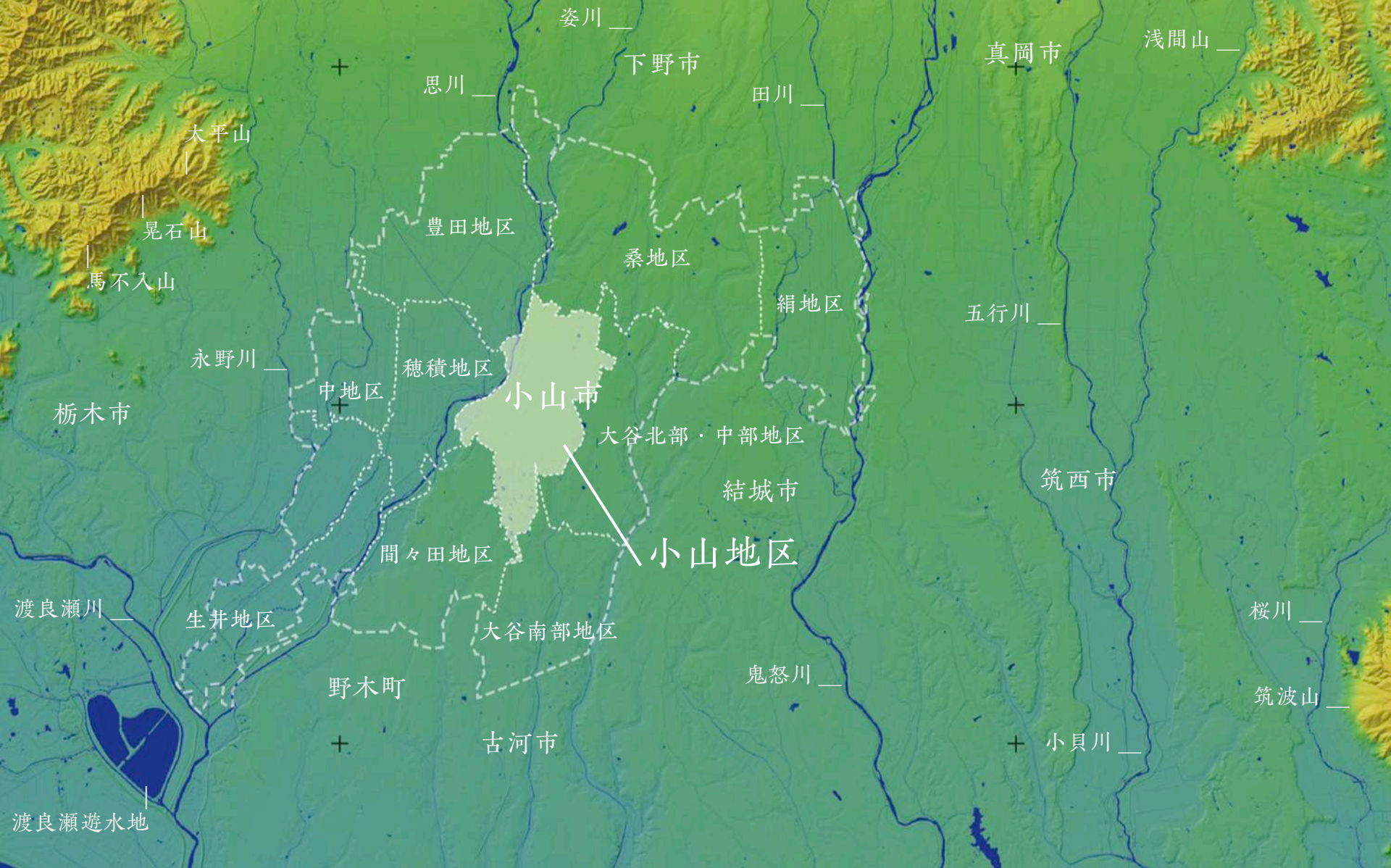
目次:

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと



合併以前の旧町村の区分に基づく小山市内の11地区を示す | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)

小山地区は、小山市の中央部に位置します。



小山市の市街化区域と小山地区の位置関係を確認する | 出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)

地区は概ね市街化区域に指定され、自然は既に...?

地域の自然について：都市の自然の見方

「しっかりと目を開いてみないと、
都市に残っている自然は
樹木と公園だけのように思えてしまう。
しかし、都市の自然は樹木や庭園、(中略)
空き地に繁っている雑草だけではない。

出典: アン・スパーン『アーバン エコシステム』高山啓子訳、環境コミュニケーションズ、1995年、2頁 (原著出版1984)



思川左岸。観晃橋下流側。対岸に思川緑地が。2022/10/30

「都市の自然とはわれわれが呼吸している
大気であり、立っている大地であり、



台地斜面林。外城。写真右は水が染み出した箇所を拡大撮影したもの。2021/10/06

飲んだり排出したりしている水であり、
棲み家を分け合っている生きものたちなのである」

宝木台地斜面林に生える
シラカシ等

JR小山駅西口周辺

御殿広場

日光街道

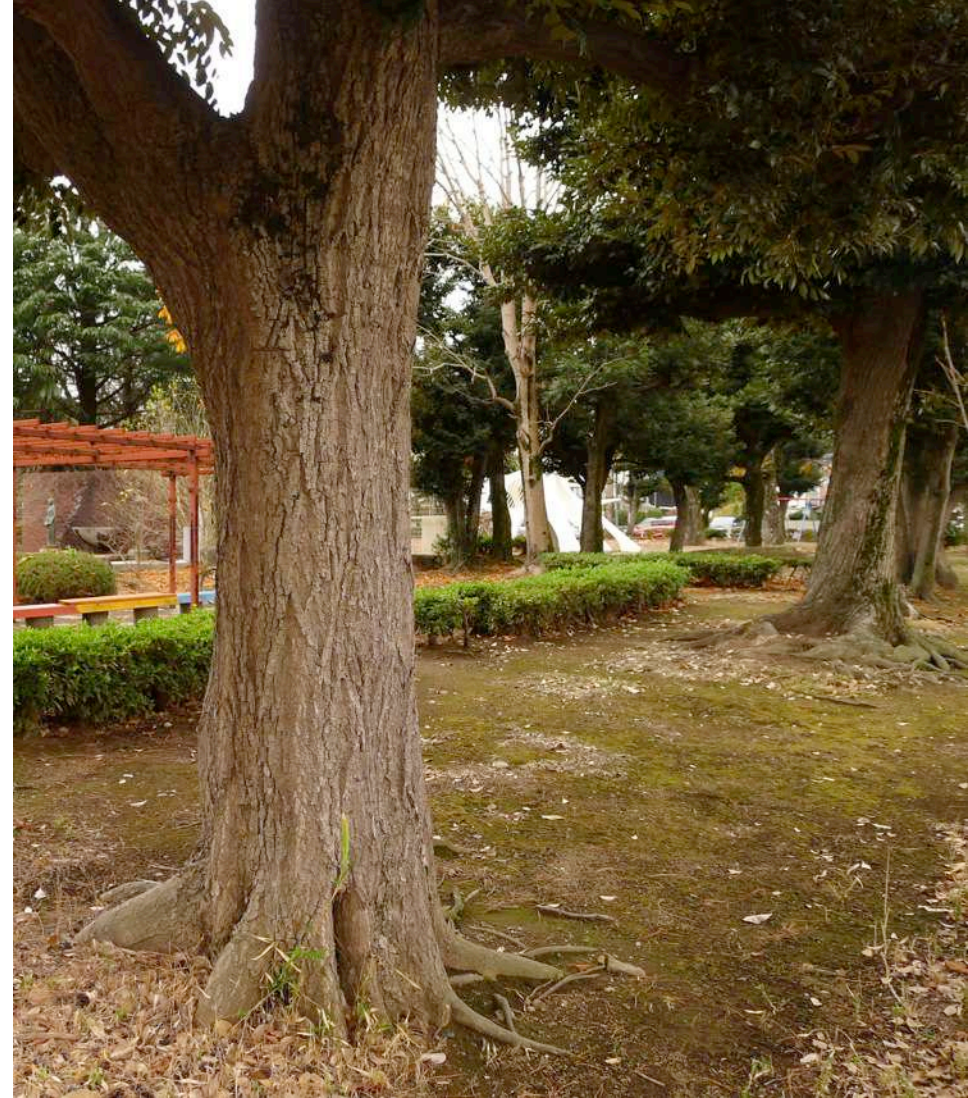
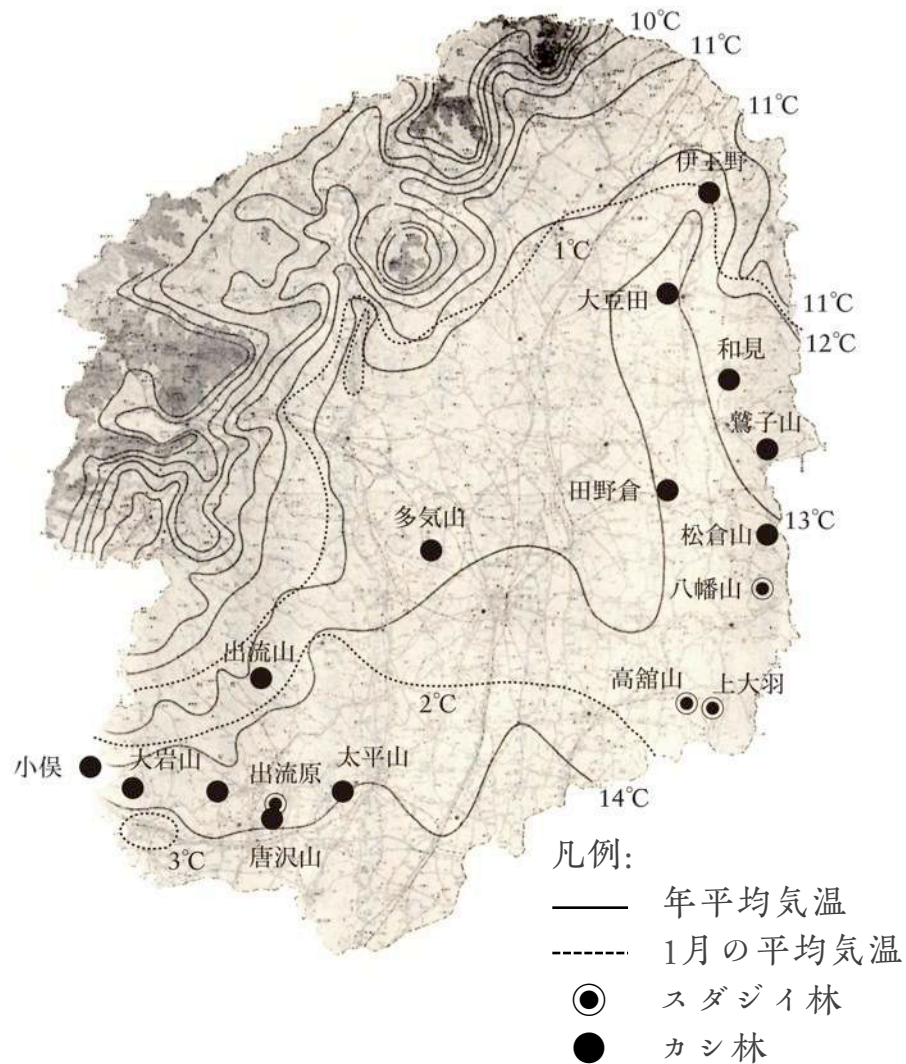
御殿広場から東側の方向を見る。中央町。2020/09/22

「これらは皆、都市の自然そのもの」である。
大半が市街化された小山地区にあっても、



御殿広場から思川の方角を見る。中央町。2020/09/22

開発に向かず台地斜面に残された樹林は、
薪炭林や木材生産林のようには人為が及ばず。



栃木県内の年平均気温、1月平均気温と常緑広葉樹林の分布

駅東公園に植栽されたスダジイ。2022/11/30

市域は暖温帯に含まれ、スダジイなどの分布域に。
(本種は県下で年平均気温13-14°C、1月の平均気温1-2°C超の範囲で生育)

目次:

1 地域の自然について

2 地域の自然への人の働きかけについて

3 地域と人々の心身の結びつき

4 景観から読みとれるその他のこと

地域の自然への人の働きかけについて

「小山は『和名抄』にも記載されているとおり、
当地方では最古の地名になる」。

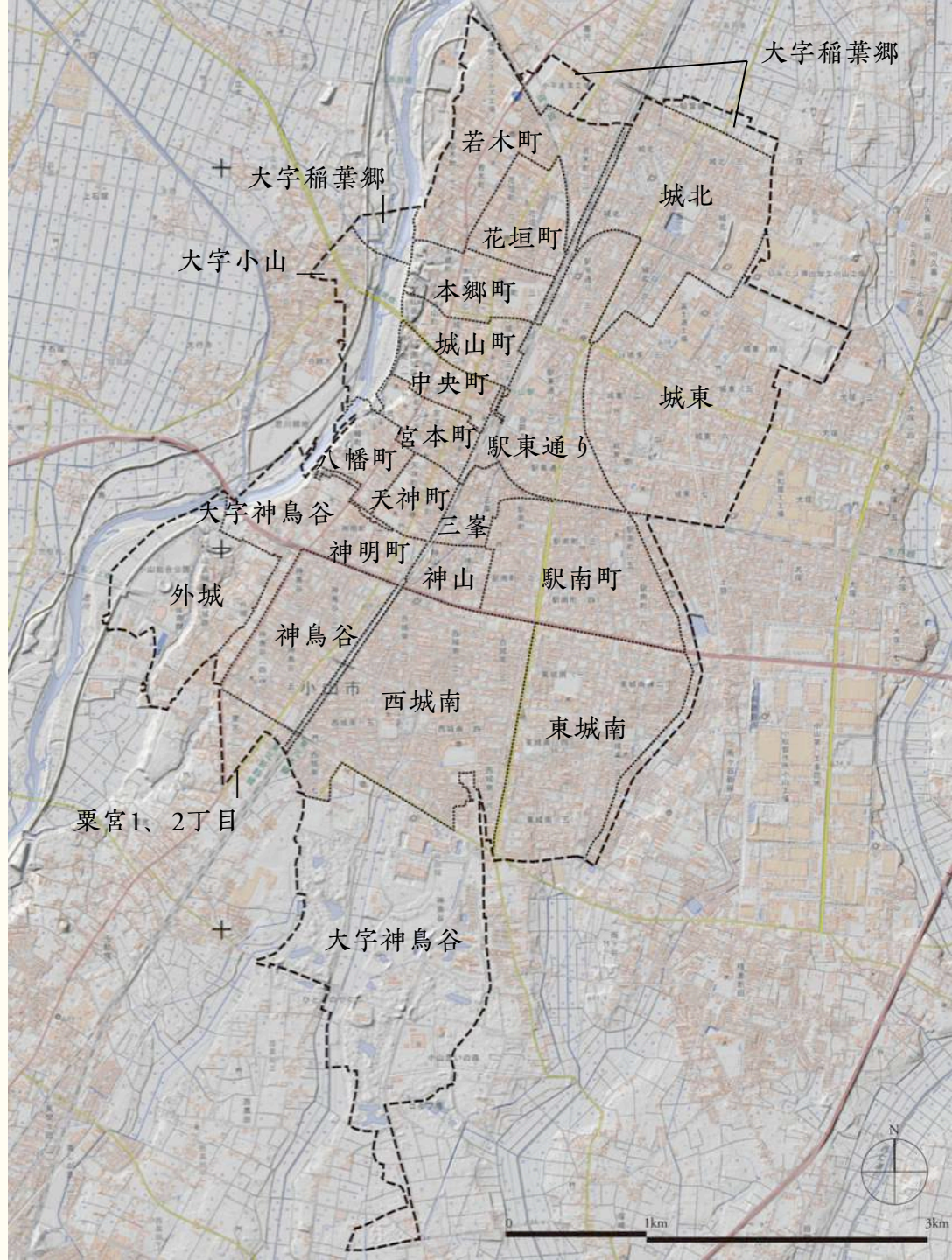
「西側の思川低地からすれば、見上げるような
崖高は確かに小高い地形となる」。

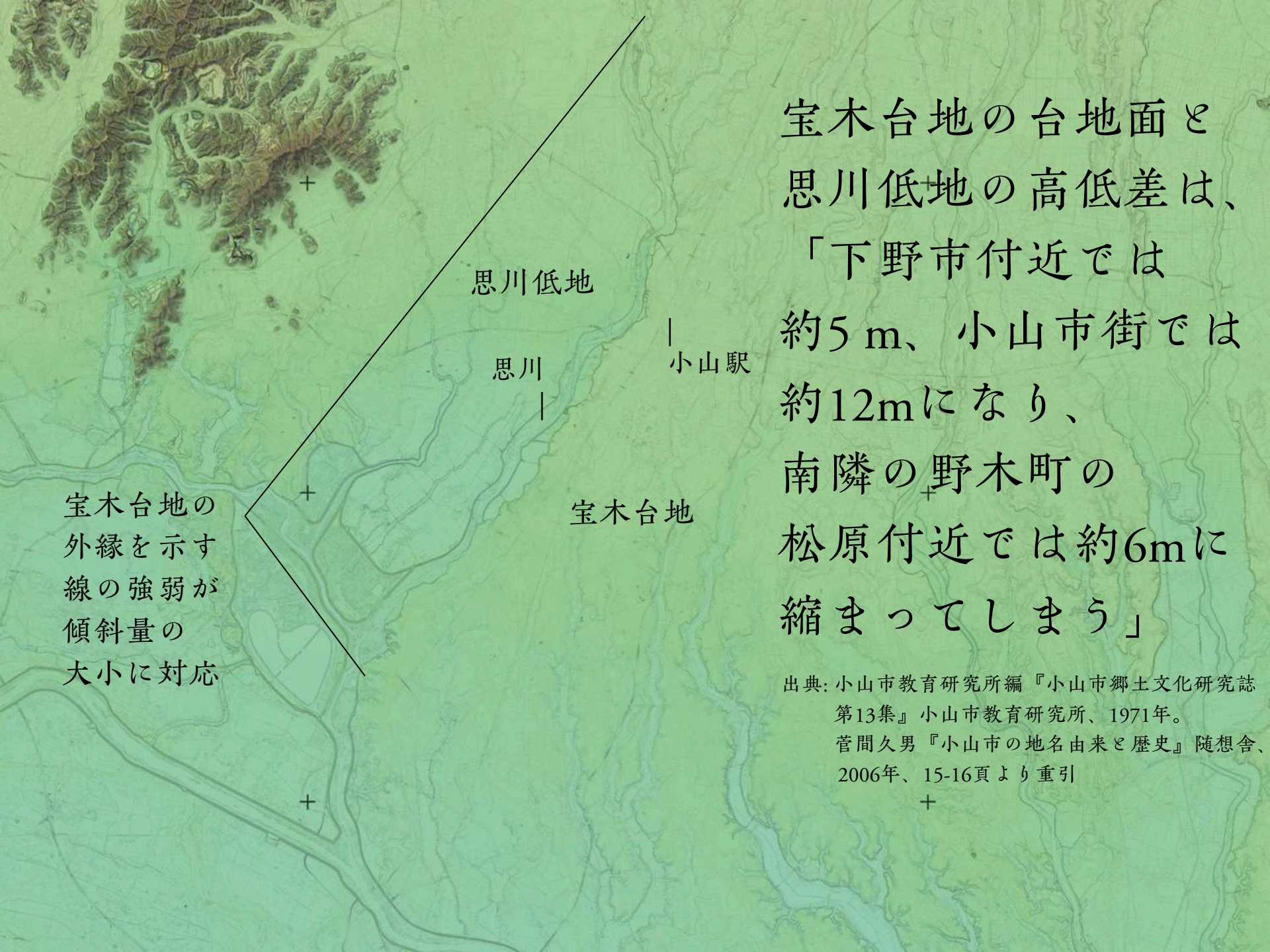
出典: 菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、2006年

かつての小山宿、
稲葉郷、
神鳥谷村から成る
現小山地区の範囲。

出典: 国土地理院 | 地理院地図

<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)





宝木台地の
外縁を示す
線の強弱が
傾斜量の
大小に対応

思川低地

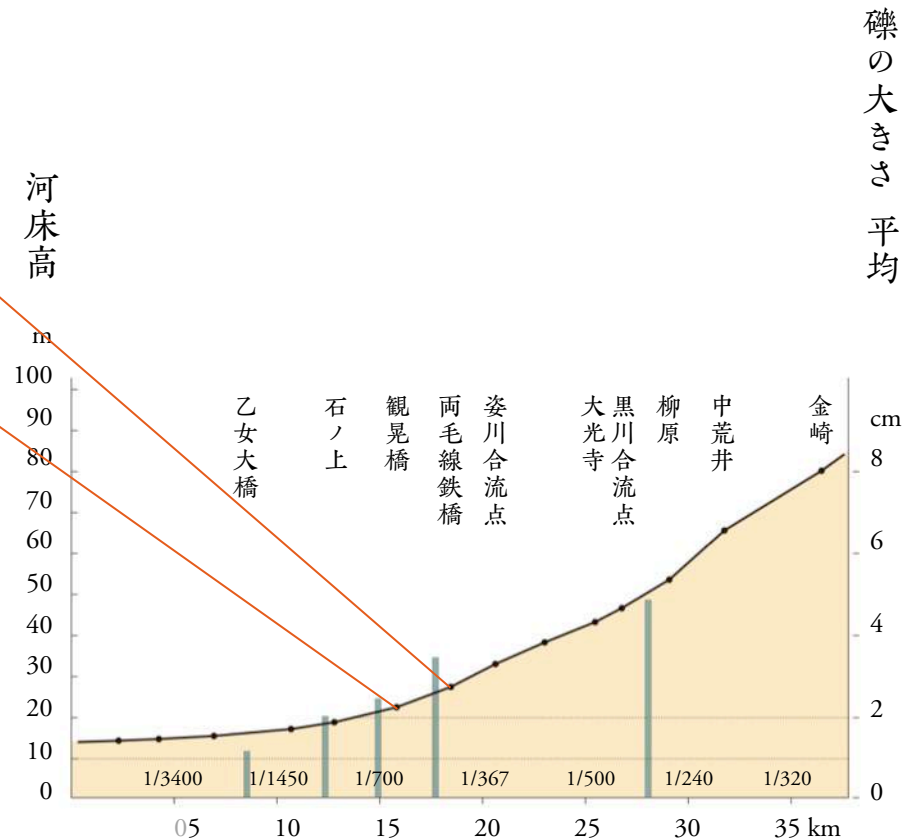
思川

小山駅

宝木台地

宝木台地の台地面と
思川低地の高低差は、
「下野市付近では
約5 m、小山市街では
約12mになり、
南隣の野木町の
松原付近では約6mに
縮まってしまう」

出典: 小山市教育研究所編『小山市郷土文化研究誌
第13集』小山市教育研究所、1971年。
菅間久男『小山市の地名由来と歴史』随想舎、
2006年、15-16頁より重引



思川の河床の傾き

出典: 小山市史編さん専門委員会編『小山市史研究』6、小山市教育委員会市史編さん室、1984年、28頁(廣瀬改変 2022)

宝木台地の台地面と思川低地の高低差の変化

台地と低地とも北から南へ低くなるものの、低地の傾きは両毛線鉄橋上流側で急になり高低差が縮小。



出典: 野上道男「関東とその周辺地域の地質」『日本の地形4 関東・伊豆小笠原』東京大学出版会、2000年。廣瀬加工、2021年

* 阿部昭・橋本澄朗・千田孝明・大嶽浩良『栃木県の歴史』山川出版社、1998年 ** 『第123回企画展 下野の鎌倉街道』栃木県立博物館、2019年

栃木県の東西の山地に挟まれた低地の高台は、
「古来日本列島の主要な縦断交通路」に。***

*** 小山市教育研究所編『小山の自然と社会』小山市教育委員会、1965年

近世に陸上交通と河川交通が併用され、近代に河川交通が鉄道交通に、以降鉄道交通が自動車交通に置き換えられるが、交通の要衝としての市域の性格は変わらず

出典: 国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2021)

渡良瀬川、巴波川、思川、鬼怒川の河岸の分布 | 出典: 奥田久監修『栃木の水路』栃木県文化協会、1979年、総376頁

近世には河川に河岸がもうけられ、江戸と直結。



「本来、
小山市は、
旧日光街道の
宿場町を核として、
明治18年(1885)に
開通した東北本線の
西側に位置し、
南北に展開する
市街地として
発展していったが」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編
III 近現代』小山市、1987年、1013頁

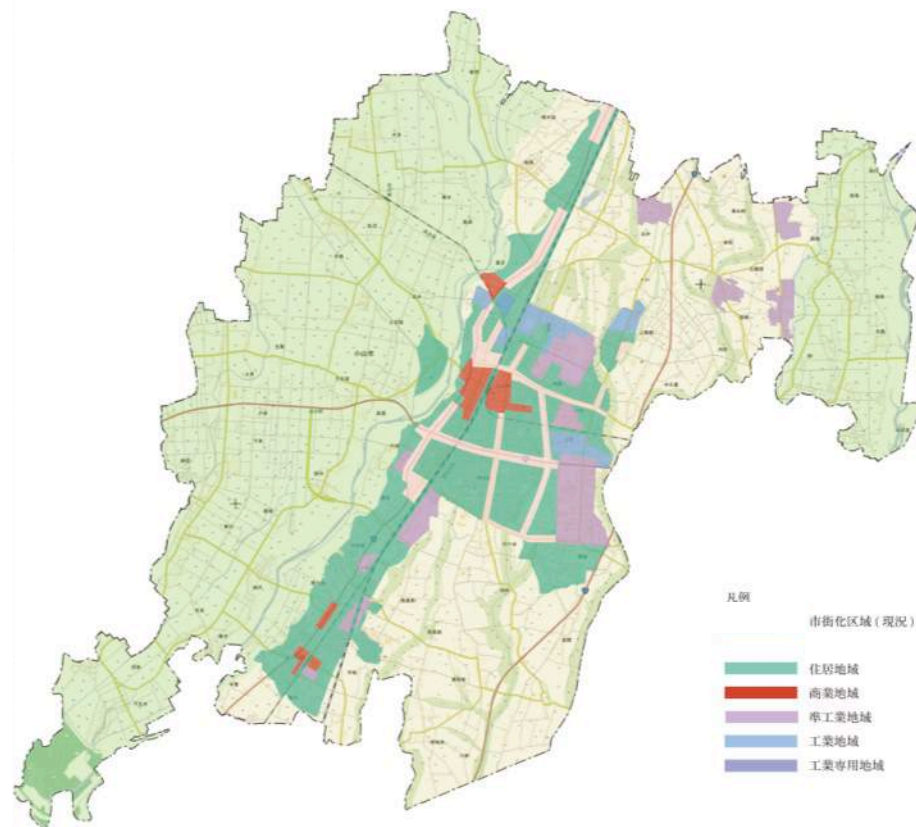
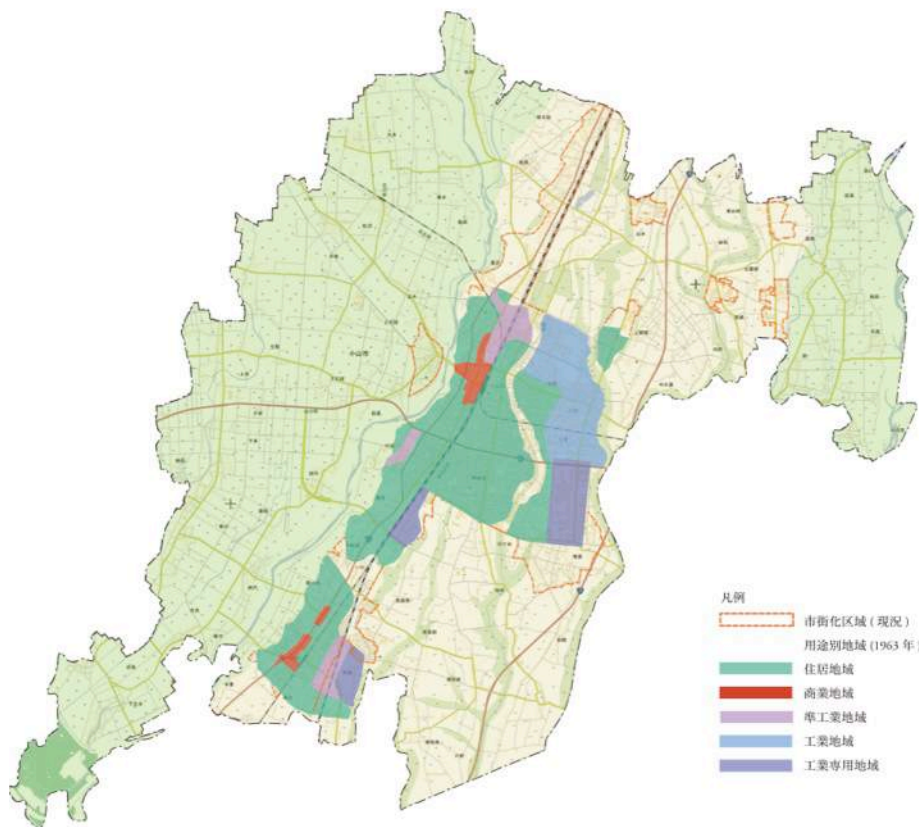
1947/09/27



昭和39年からの
小山駅東口の
土地区画整理事業を
始まりとして、
「小山駅の東口は、
都市計画事業によって
農村部から都市へと
その景観を一変した」

出典: 小山市史編さん委員会編『小山市史 通史編
III 近現代』小山市、1987年、1013頁

2021/05/04



昭和38年 (1963) 策定の小山市街地開発整備計画における整備区域 現在指定される市街化区域

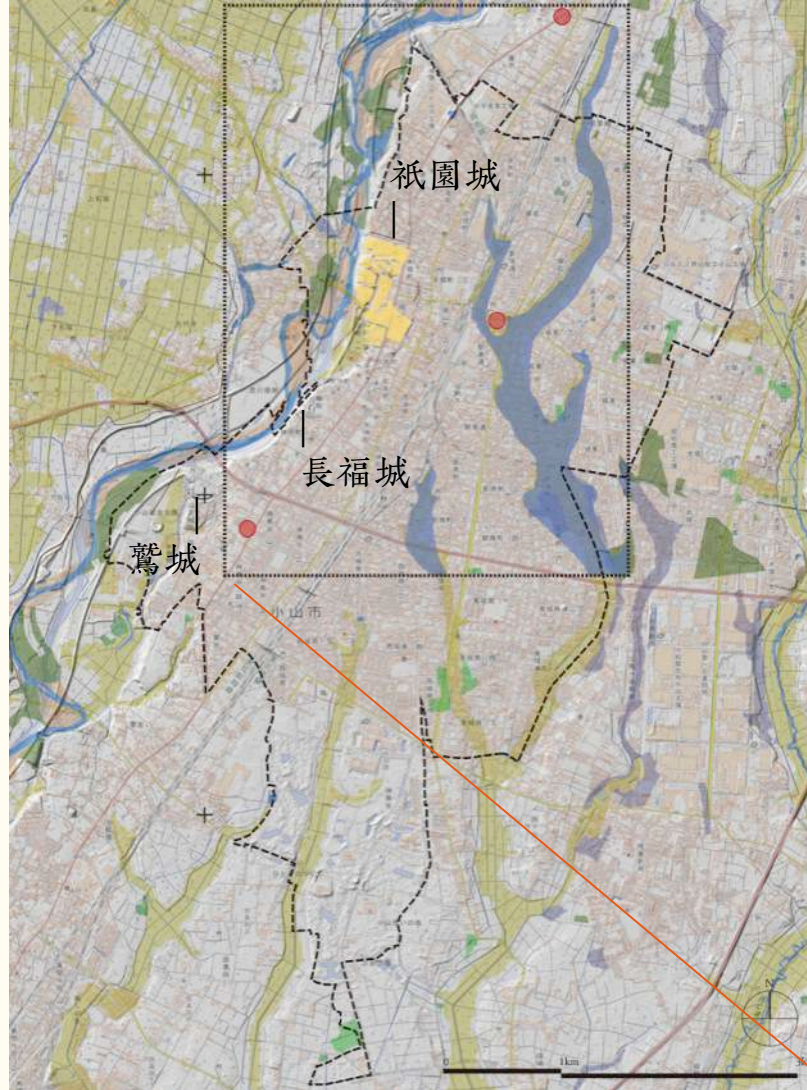
ただし、1963年の市街地開発整備計画から
市街化区域は大きく拡張されず、
市域の約19%にとどまります (市街化調整区域は約81%)。

現在の地形図に、
明治13年(1880)から
19年(1886)にかけて
制作された
低湿地の分布と
土地利用がわかる
図を重ねます。

出典：国土地理院 | 地理院地図

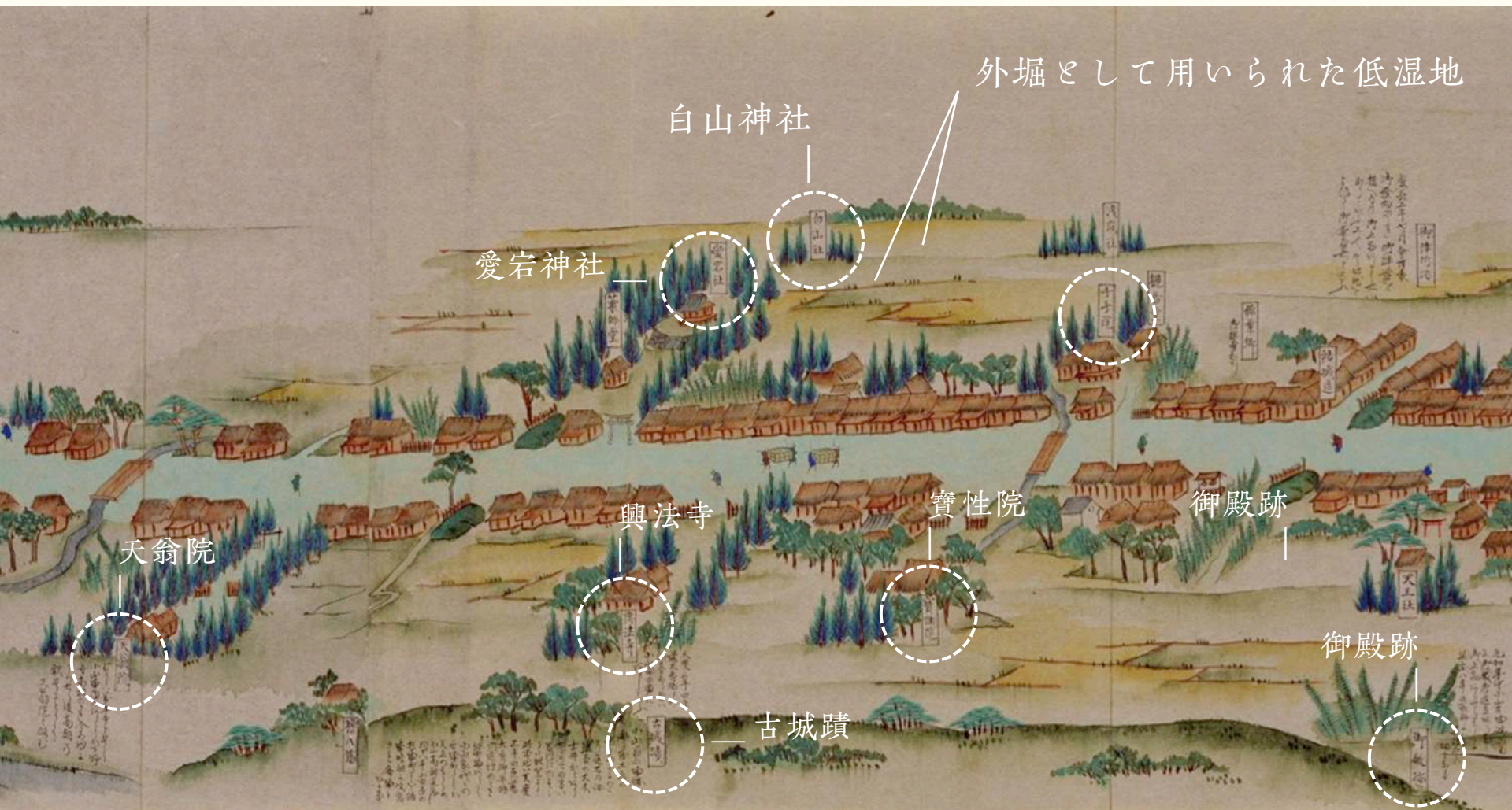
<http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)





「祇園城復原図」を現在の地形図及び明治期の低湿地図に重ねる。出典:国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)

「祇園城下(中略)は、西・東を思川と低湿地とによって
取り囲まれた台地の北・南に土塁などを造り(後略)」



日光道中絵図巻5より祇園城周辺が描かれた部分を拡大する

明治14年に内務省が購入した「日光道中絵図」に描かれた祇園城周辺。白山神社を挟んで凹部が。



栃木県道・茨城県道264号小山結城線跨線橋から北側を見る。駅東通り。2022/11/30

出典: 国土地理院 | 地理院地図 (廣瀬改変 2022)

祇園城の外堀に用いられた低湿地の名残りを
わずかにとどめる箇所が見つかりました。



城北公園通りから小山市立城北小学校南側の調整地を見る。城北。2022/11/30

出典: 国土地理院 | 地理院地図 (廣瀬改変 2022)

祇園城外堀とされた低湿地に重なる調整池。
双方の幅はほぼ同じで、低湿地の規模が窺えます。



城北。2022/11/30

地盤改良は行われつつ地形の高低差は各所に残り、
降水が集まる範囲も市街化以前から余り変化せず。



市街地内に残る農地。神鳥谷。2022/10/30

「市域農村においても、日光街道の小山・間々田
両宿 (中略) の需要に応じて種々の作物が栽培された」

	田		畑		宅地		平地林		原野		合計	
	反	%	反	%	反	%	反	%	反	%	反 =300歩 (坪) 991.736 m ²	
豊田村	10,034	57.6	03,804	21.8	01,055	06.1	02,093	12.0	00,444	02.5	17,430	思川低地
穂積村	05,911	55.2	02,772	25.9	00,619	05.8	00,853	07.9	00,554	05.2	10,709	
中 村	04,951	66.0	01,533	20.4	00,650	08.7	00,312	04.2	00,055	00.7	07,501	
寒川村	03,642	64.7	01,466	26.0	00,424	07.5	00,080	01.4	00,019	00.3	05,631	
生井村	03,279	30.7	04,464	41.8	00,534	05.0	00,384	03.6	02,021	18.9	10,682	
桑 村	03,510	14.2	04,646	18.7	00,811	03.3	13,242	53.5	02,557	10.3	24,766	宝木台地
小山町	01,237	11.0	04,240	37.7	00,470	04.2	05,013	44.6	00,276	02.5	11,236	
大谷村	03,306	12.1	05,756	21.1	01,004	03.7	14,554	53.3	02,692	09.8	27,312	鬼怒川低地
間々田村	02,378	14.0	05,560	32.8	00,717	04.2	07,777	45.9	00,514	03.0	16,916	
絹村	03,653	25.3	05,958	41.3	01,035	07.2	02,279	15.8	01,489	10.3	14,414	

明治27年 (1894) における小山市域各町村の土地構成 出典：『下都賀郡統計書』。小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 III 近現代』小山市、1987年、153頁

明治中期、小山町の宅地面積は寒川村の次に
少なく、田は最少、畑と平地林は中位でした。

地域の自然への人の働きかけについて

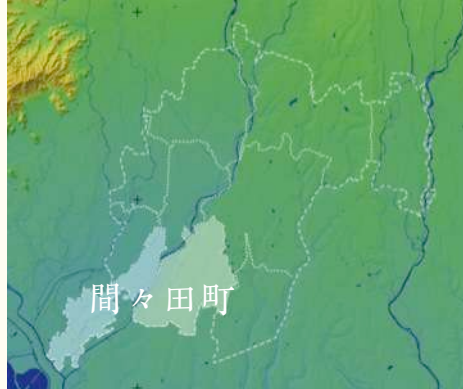
「一般的には都市はみずから
主要食料の生産は行わないで、
その後背地に食料品の供給を仰ぐ
幾多の集落を控えており、
食料品その他の生活必需品の加工および製造、
各種物資の交易集散を行うものである」。

地域の自然への人の働きかけについて

「都市の (中略) 規模は集落とは異なり、(中略) 技術の進歩発達とともにしだいに大きくなり」。

奥田教朝・吉岡昭雄『都市計画通論(第2版)』オーム社、1973年

ただし、「農業・漁業などを
生活の根拠において、主要食料の自給自足を行っている集落」と同様に、本来は
都市でも「生活の根拠」を重視すべきでは？

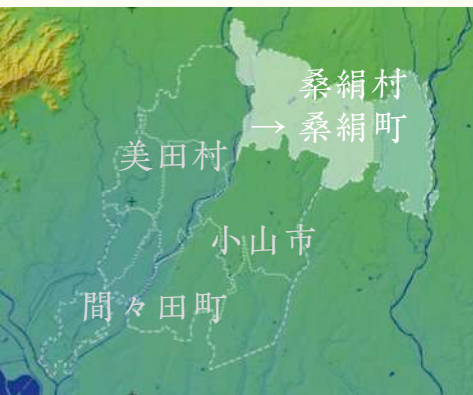


明治22年 (1889) 小山町誕生。
昭和29年 (1954) 大谷村と合併し
小山市に

昭和30年 (1955) 豊田・中・穂積
三村が水田農村建設をめざして
合併。美田村に

昭和30年 (1955) 間々田町と生井
村は合併

昭和31年 (1956) 間々田町に寒川
村が編入



昭和31年 (1956) 桑村と絹村が合
併し桑絹村に。昭和36年 (1961)
には町制施行し桑絹町となる

昭和38年 (1963) 小山市に間々田
町、美田村が合併

昭和40年 (1965) 小山市に桑絹村
が編入。現在の市域に

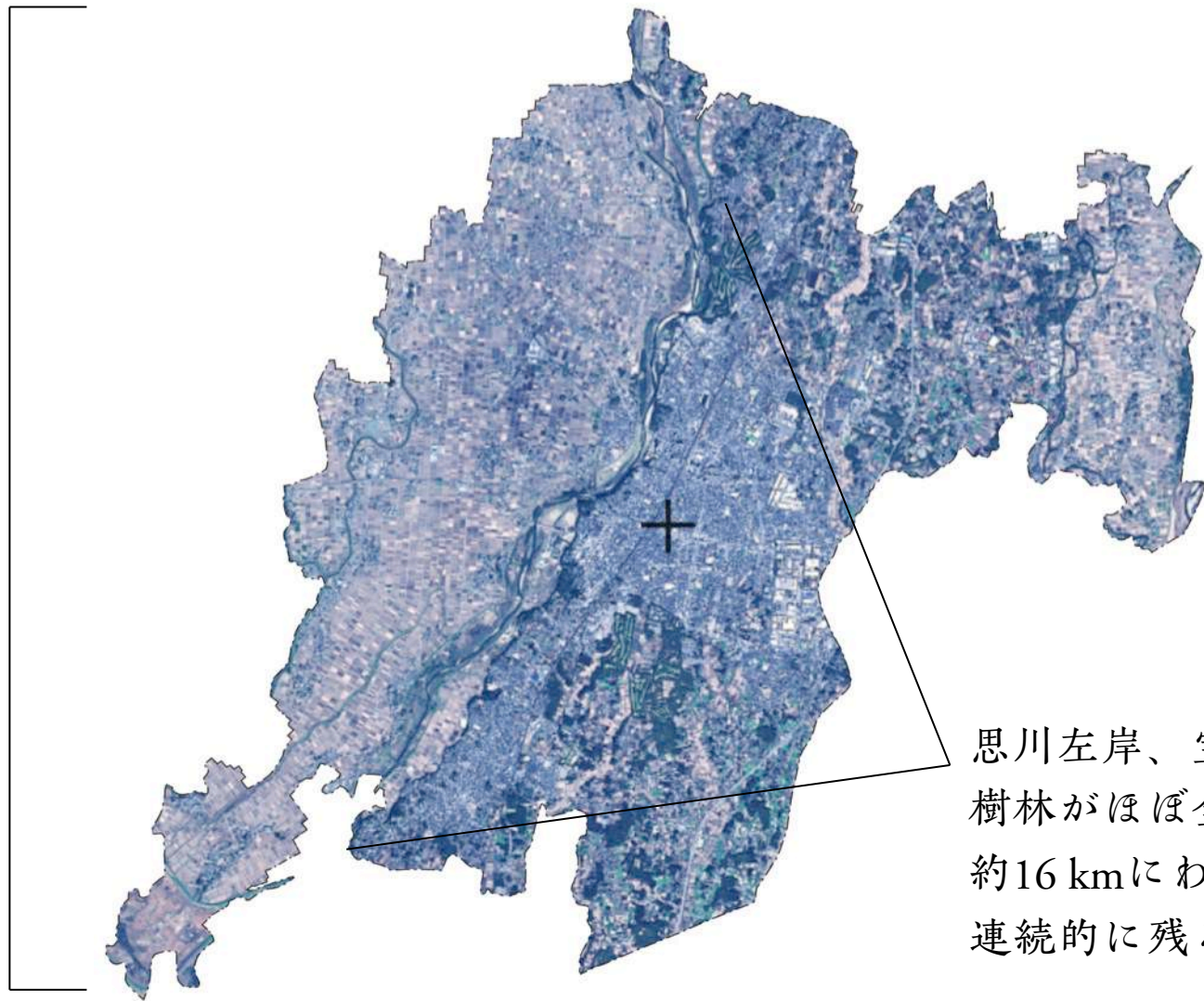
備考:
明治38年 (1904) の統計では、
小山市内の総戸数は1,181で
2位の豊田村 (870)、
3位の間々田村 (800) を上回り、
最大に達している

出典: 「統計二」 明治38年 (栃木県庁文書)
小山市史編さん委員会編 『小山市史
通史編 III 近現代』 小山市、1987年、
388頁より重引

小山市域の変遷 | 出典: 小山市教育研究所編 『小山の自然と社会』 小山市教育委員会、1965年、総158頁

本市で、町村合併は結果的に都市と農村の結合を。

南北約21.40 km



思川左岸、宝木台地斜面に
樹林がほぼ全延長、
約16 kmにわたって
連続的に残る

小山市域の空中写真。出典: 国土地理院 | 地理院地図 (標準地図+陰影起伏図) <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)

武蔵野台地の国分寺崖線は延長約30km。約35%、
約10.5km残る斜面緑地を都が保全。小山市では...



市内のすべての樹林地
保全樹林地地区 (3年更新) を基本とし、
特別保全樹林地地区 (10年更新) に指定し、
担保性の向上を図る。

特別緑地保全地区促進区域
(江戸川沿い斜面林ゾーン)

矢切の斜面林 ※約2km
(現矢切特別緑地保全地区)

矢切の耕地

栗山特別緑地保全地区

みどりの保全力
推進モデル地区

※松戸市域
南北 11.5 km

出典: 樹林地保全制度適用方針図 「松戸市緑の基本計画 改訂版」 松戸市、2009年

耕地より斜面林を望む。2019/10/04

松戸市は「都市緑地法による『特別緑地保全地区』、
松戸市緑の条例による『保全樹林地地区』
『特別保全樹林地地区』を指定し保全に努めている」



観晃橋から思川下流側を見る。中央町。2020/09/22

思川に沿って連続する斜面林。

← 八溝山地 →

宝木台地斜面林

中心市街地

集落の屋敷林群

筑波山

思川低地上の農地

下国府塚(しもこうづか)、穂積地区。2021/10/06

市域で第一番に市街化したのは日光街道沿道で、
台地斜面林はこれに平行し、田園部との間に位置。



小山思いの森公園と新小山市民病院。神鳥谷(大谷南部地区、塚崎の側より見る)。2021/11/12

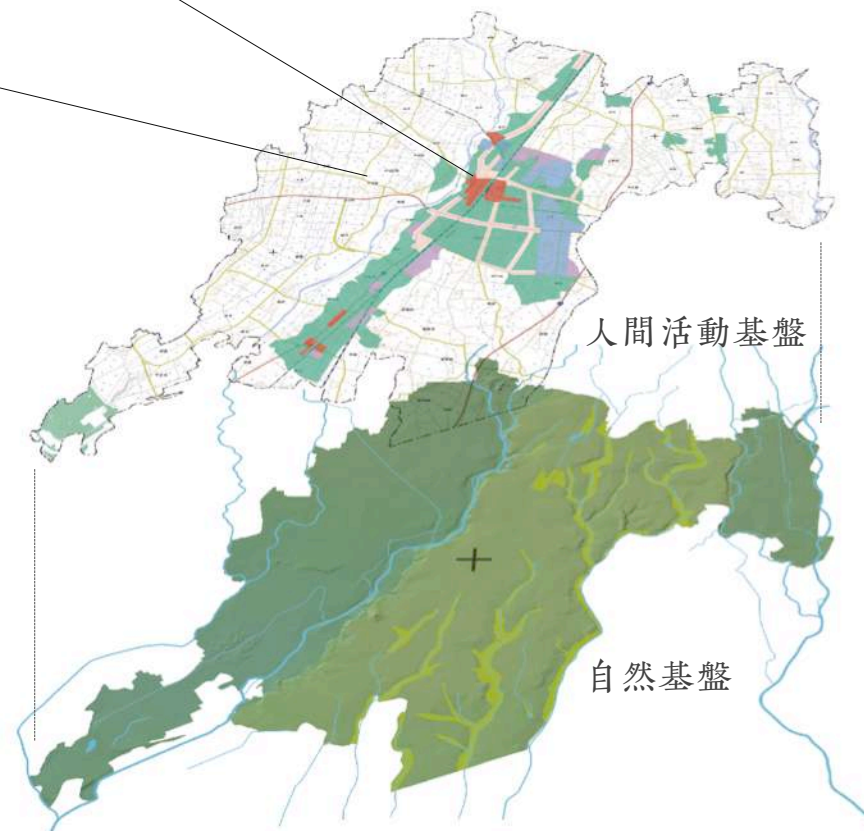
台地上にあり「平地林が多く畑も多い土地構成」を示した小山地区で、平地林は「南東部に集中」した。なお、肥料自給には田畑と同程度の平地林が必要に

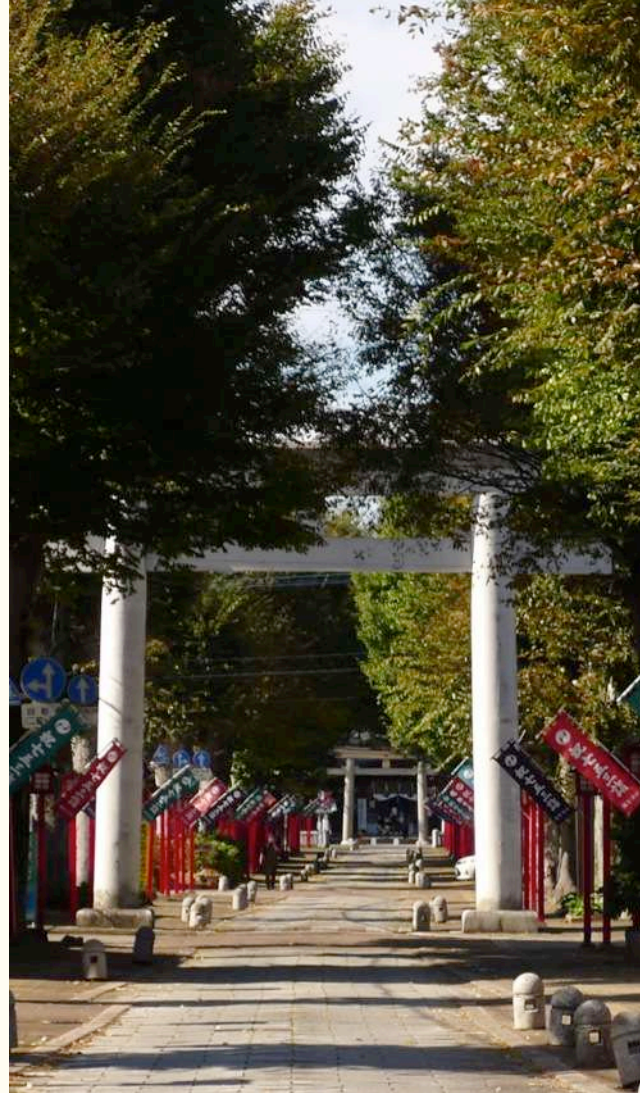


下国府塚より小山地区を望む。2021/10/06

市役所6階より中央町、宮本町を見下ろす。2022/09/02

地域の自然を基盤として
人間の活動が行われ、
市域の環境と景観は
形成されてきたことは、
都市然として見える
小山地区にも
当てはまります。





旧日光街道から西側を見る。左より天神町(小山市立第二中学校南側)、宮本町(須賀神社参道)、同(常光寺参道-清水坂)。2022/10/30

旧日光街道から西側へ抜ける通りの先を見ると、
思川との境の斜面林が街並の背景を成しています。

目次:

- 1 地域の自然について
- 2 地域の自然への人の働きかけについて
- 3 地域と人々の心身の結びつき
- 4 景観から読みとれるその他のこと



祇園山天翁院萬年禪寺。2022/10/26



徳王山妙楽院興宝寺。2022/11/28



愛宕神社。2022/11/28



遍照山摂取院常光寺。2022/10/30



秀郷山称名院現聲寺。2022/10/30



須賀神社。2021/12/24

祇園城の南北の寺社群は、信仰の場として、また
歴史を伝える場として地域と人々の心を結びます。

地域と人々の心身の結びつき

「明治元年から同10年にいたる間 (中略)
幕末に155寺を数えた市域寺院のうちで
約60%に当たる91寺が廃寺となり (後略)」

出典:小山市史編さん委員会編『小山市史通史編 III 近現代』小山市、1987年、125-148頁

- ・ 明治政府の神仏分離政策による廃寺処分、
神社の社格決定への民衆の抵抗も*。
- ・ 小山町では20寺中10寺が廃寺に**。

* 神社体系の創出政策により村社の社格を廃するとした神社を擁する地区で、村落祭祀が守れなくなるとして社格の訂正を求める運動が展開され、檜木 (生井地区) の水神社などが村社に加列

** 小山町の範囲には稲葉郷、小山宿、神鳥谷村が含まれたが、稲葉郷3寺と神鳥谷村2寺に廃寺はなく、小山宿の15寺中10寺が廃寺に処された

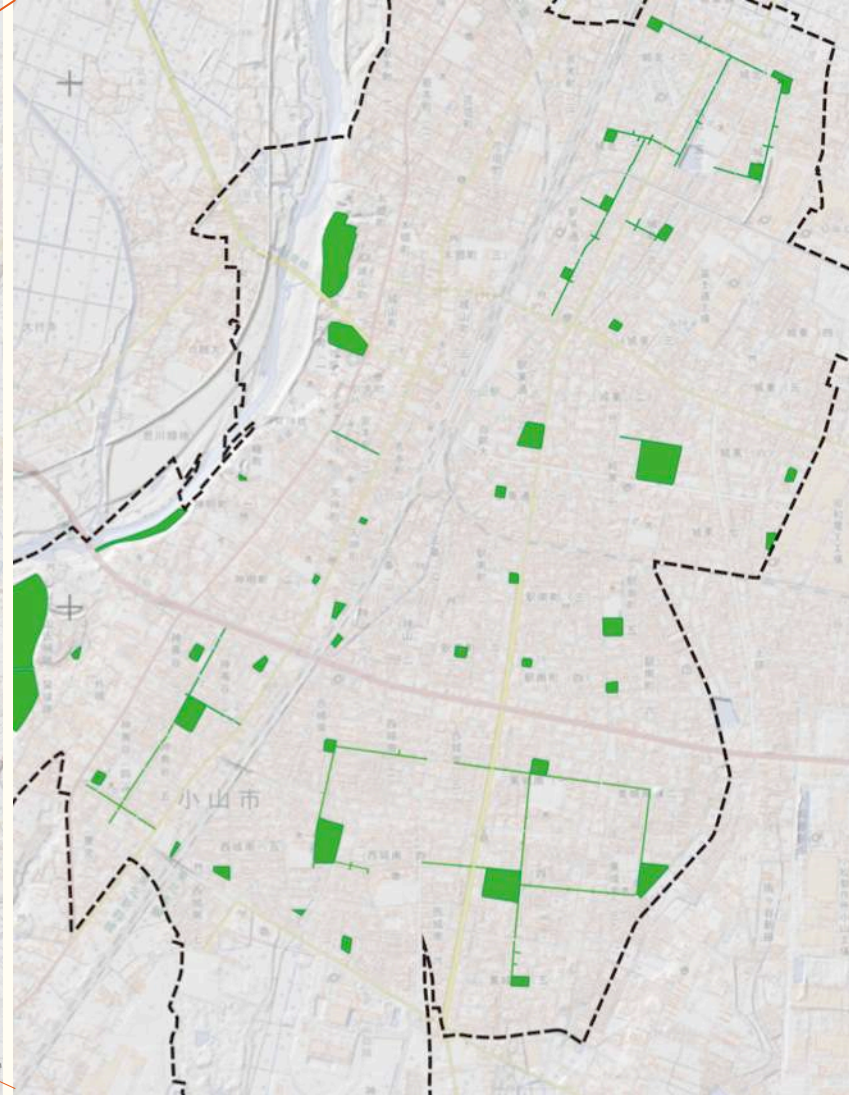
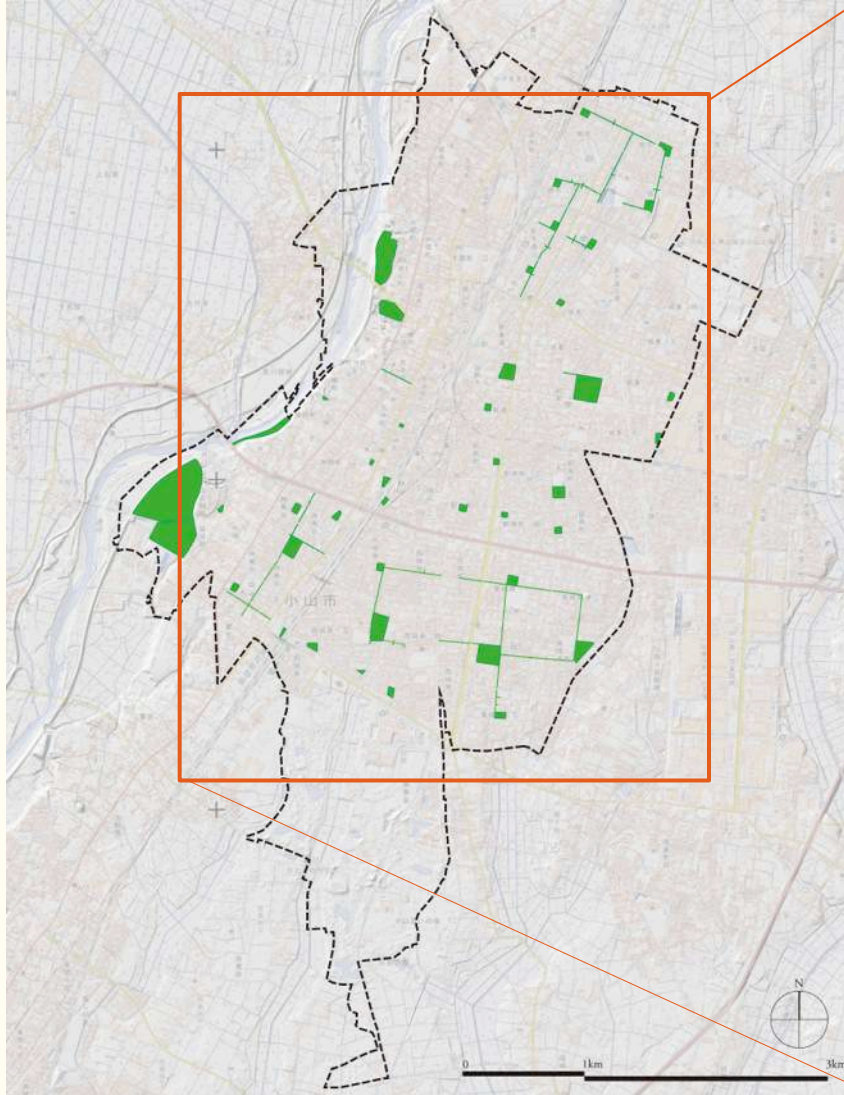


アユ (川原慶賀 1823-1829)。出典: Naturalis Biodiversity Center/Wikimedia Commons

大正期、有志が毎夏観晃橋脇に水泳場を開いた他、
「思川をめぐる風物詩として市域内外の人々に
親しまれたのが『鮎狩り』であった」。

目次:

- 1 地域の自然について
- 2 地域の自然への人の働きかけについて
- 3 地域と人々の心身の結びつき
- 4 景観から読みとれるその他のこと



土地区画整理事業により系統立てて整備された公園と歩行者専用道路。出典:国土地理院 | 地理院地図 <http://maps.gsi.go.jp/> (廣瀬改変 2022)

踏査をしながら公園と接続された幅員4m、
延長約7kmに及ぶ歩行者専用道路網の存在に...



神久保公園西縁と一ノ久保通り。神鳥谷。2022/10/30

歩行者専用道路が西縁と北縁に接した神久保公園。
双方の境界がとけ合わされて大らかな趣の空間に。



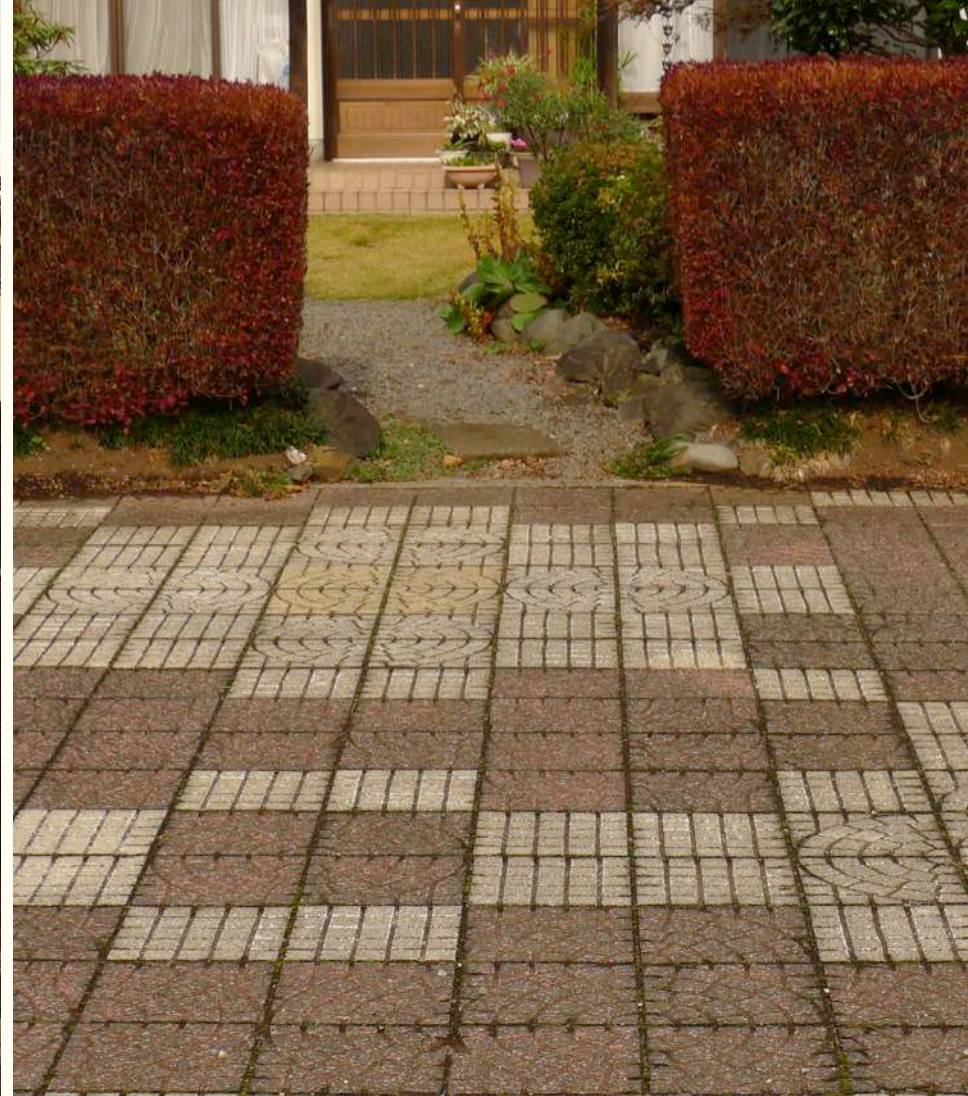
白仲公園東縁と白仲通り。駅東通り。2022/11/30

歩行者専用道路が東縁と北縁に接した白仲公園。
同公園はまた、小山市立城北保育所に隣接します。



白仲通りと連続する城北公園通り。城北。2022/11/30

歩行者専用道路が農地に隣接する区間。果樹、
庭木、街路樹と土壌の組み合わせが生物の生息にも



城北公園通り。城北。2022/11/30

歩行者専用道路に植栽された低木の種類と量感に合わせて生垣を仕立てた沿道の家屋の例。



城北公園通りから喜沢向原通りへ。城北。2022/11/30

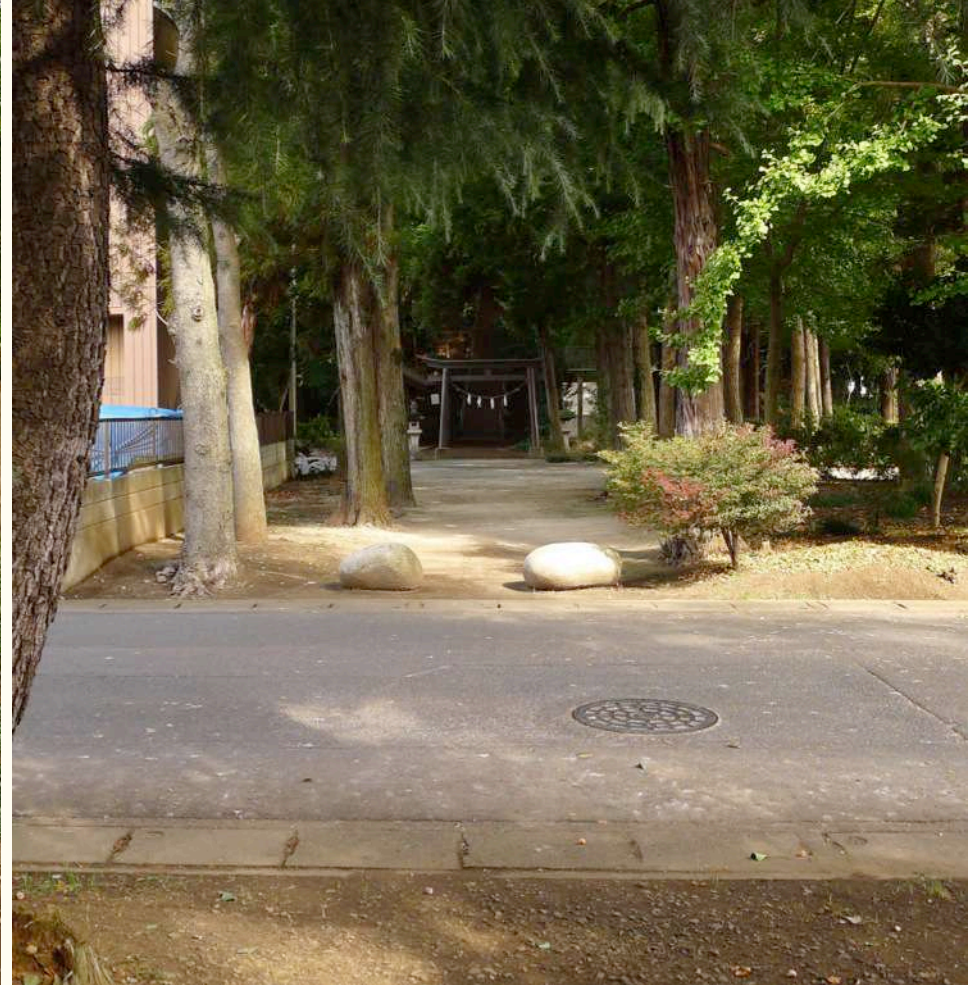
高木が比較的高く育てられた区間。
沿道の家屋にはこの空間に合わせたテラスなども。



祇園城通り (都市のオープンスペース利用に関する社会実験の様子)。街路樹はオモイガワ (思川桜)＊。中央町-城山町。2020/09/22

社会実験の名称は、河成段丘 (river terrace) である
宝木台地ならではのもの。小山駅周辺では、
市民と市の最新の協働が進められます。

＊オモイガワはマメザクラとエドヒガンの交雑種ジュウガツザクラおよびエドヒガン、オオシマザクラの交雑種ソメイヨシノが自然交配された栽培品種と推定 (国立研究開発法人森林総合研究所)



愛宕神社塚古墳。城東。2016/10/31

愛宕塚古墳（6世紀の築造と想定）も、人の手による地区最古の遺物として、地区の歴史を振り返る参考に。また、参道は地区の歩行者専用道路の原形のようにも思われます。